小樽市

■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
□　教育支援センターの機能充実に向けた取組

１人１台端末を活用して現状を改善した取組

《 概 要 》

○　当教育支援センターは、生活リズムの乱れや人間関係などの様々な課題を抱えた複数名の児童生徒が利用している。
○　生活リズムの改善及び学校復帰に向けた学習支援や社会性の育成、集団への適応を目指して支援を行った。
○　１人１台端末を活用し、個々の状況に応じた学習支援や学級の友人と交流を行った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　生活リズムの改善	・生活リズムが乱れ不登校となっていた生徒が、起床時刻の改善に向けて、教育支援センターと定時に端末でつながるようにした。 ・生活リズムの改善が進み、登校はできないものの教育支援センターへの通級回数が増加し、引きこもり状態を解消することができた。
○　学校復帰に向けた学習支援や社会性の育成	・友人関係が原因で教育支援センターに通級していた児童が、学級担任との連携を図って授業参加を促したことで、教育支援センターから理科の授業にオンラインで参加するようになった。 ・児童は、学級の雰囲気をつかみ、友人とも会話が弾んだことで、学級に戻る気持ちが高まり、学校復帰を果たすことができた。
○　集団への適応	・不登校が３年間続いていた児童が、端末で学級内の様子を視聴したことをきっかけに、徐々に学校・学級行事に参加する機会が増加した。 ・保護者と学級担任・学校との関係が改善し、児童の登校支援に向けて連携を図ることができた。

《 取組の成果 》

○　１人１台端末を活用したことで、児童生徒が教育支援センターや学校とつながり、学校復帰や教育支援センターの利用が増えるなど、状況が改善した。
○　学校との連携を密にしたり、対応する指導員の体制を充実させたりするなどしたことで、様々な状況の児童生徒に適した支援ができた。
○　端末を活用した学習支援を行うことで一人一人の状況に応じた支援が可能となり、児童生徒の学習に対する意欲が高まった。

余市町

■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
■　教育支援センターの機能充実に向けた取組

学校復帰に向けた取組

《 概 要 》

○　平成８年に開設した当教育支援センターは、人間関係や生活リズムの乱れなどの様々な課題を抱えた複数名の児童生徒が利用している。
○　学校復帰に向けた学習支援や、安心して楽しく過ごすことができる活動の設定、学校や保護者との連携による情報共有を目指して支援を行った。
○　指導員２名を配置し、国語、算数・数学、外国語を中心とした学習面での個別の支援や教室内外での活動等を行った。また、様々な方法を用いて学校や保護者との情報共有を行った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　学校復帰に向けた学習支援	・国語、算数・数学、外国語の基礎的な学習内容の定着に向け、個別や学年ごとのグループで学習支援を行った。 ・社会、理科等について、各教科のポイントを絞った指導を行った。 ・定期テストや学力テストに向けて、学習支援を行った。
○　安心して楽しく過ごすことができる活動の設定	・カードゲームやボードゲームなど、レクリエーションの日常的な実施や一人一人のニーズに応じたコミュニケーション活動の設定及び時間の確保を行った。 ・共同で作業することの楽しさを経験する農園作業、調理実習、押し花教室等を実施した。
○　学校や保護者との連携による情報共有	・学校との連携では、「個別の指導票」と「通級状況」で、通級児童生徒の状況を共有した。 ・家庭との連携では、日常的なメールや電話での情報共有、情報交換を行うとともに必要に応じて面談を実施した。

《 取組の成果 》

○　児童生徒一人一人の実態に応じて基礎学力の向上を図るように学習活動を工夫したことで、児童生徒の学習への自信につながった。
○　各種レクリエーションやコミュニケーション、その他の活動等で、児童生徒が安心して楽しく過ごすことができる場を提供することができた。
○　学校や保護者と日常的に連絡や情報共有等を行うことで、児童生徒の学校への登校機会が増えた。

岩内町

■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
□　教育支援センターの機能充実に向けた取組

児童生徒の学習意欲を引き出す学びの支援

《 概 要 》

○　平成 29 年に開設した当教育支援センターは、長期欠席が続いているなどの様々な課題を抱えた複数名の児童生徒が利用している。
○　学習意欲を引き出すことや、家庭・学校・教育支援センターによる情報共有を目指して支援を行った。
○　指導員１名を配置し、児童生徒の学習状況の確認や興味・関心の高い教科を中心に学習を進めながら、学習保障を行った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　学習意欲を引き出す支援	・教育支援センターにおいて、児童生徒の学習状況の確認や興味・関心の高い教科を把握し、できるところからできる範囲で学習に取り組むよう指導した。 ・教育支援センター指導員が児童生徒に学習を強制することなく、学習意欲を少しずつ高めるよう地道に取り組んだことにより、児童生徒は、学習の遅れと学習意欲を徐々に取り戻し、学習保障につながった。
○　保護者・学校・教育支援センターによる情報共有	・学校と児童生徒及び保護者の関係が良好であったことから、教育支援センターへの見学受け入れを通して、児童生徒の実態を共有することができた。 ・児童生徒及び家庭・学校・教育支援センターで情報共有を図り、学校復帰の時期を的確に見極めることにより、児童生徒は徐々に登校ができるようになっていった。

《 取組の成果 》

○　児童生徒の状況を的確に把握し、状況を踏まえた対応をすることで、児童生徒は学習意欲を取り戻し、学習の遅れを改善することができた。
○　家庭や学校と連携することで、児童生徒の学習機会の確保や、今後の学校復帰に向けた相談体制の構築などを円滑に進めることができた。
○　長期欠席が続いている児童生徒に対し、学校からの働きかけを続けることにより、教育支援センターで学習したいという児童生徒が増加した。

黒松内町

□　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
□　教育支援センターの機能充実に向けた取組

安心する居場所づくりと学びの場を目指して

《 概 要 》

○　令和元年に開設した当教育支援センターは、急な環境の変化に対応することを苦手としているなどの様々な課題を抱えている複数名の児童生徒が利用している。
○　児童生徒の様々なニーズに対応できる環境づくりをするとともに、安心する居場所づくりと社会性の育成、児童生徒の学習意欲を高めるための学校との連携をめざして支援を行った。
○　指導員２名を配置し、情報共有を密にし、学習支援や様々な活動を行うとともに、学校と連携を図った学習等の支援や他施設を活用した支援の充実を図った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　様々なニーズに対応できる環境づくり	・小規模、少人数の教室であるが、教員免許状又は保育士免許状を保有している２名によるシフト体制とし、情報共有を図りながら、児童生徒が通級しやすい環境づくりを行った。 ・希望する児童生徒に、スクールカウンセラーの面談を実施した。
○　安心する居場所づくりと社会性の育成	・個別学習ができる机を置いたり、中央にテーブルを置いてグループ活動ができるようにしたりするなど、個々の状況に応じて安心して過ごすことができる教室内のレイアウトの工夫を行った。 ・教室内での活動に加え、隣接する総合体育館や図書館の活用、散歩などの野外活動を定期的に実施したことにより、児童生徒は他者との関わりを深められるようになった。
○　児童生徒の学習意欲を高めるための学校との連携	・教育支援センターと学校が連携を図り、学級担任は、教育支援センターの児童生徒の学習の様子を確認したり、ICT を活用し、学校の授業をオンラインで配信したりするなどの学習支援を行った。

《 取組の成果 》

○　家庭の生活や別室登校での教員との関わりのみだった児童生徒が、教育支援センターの指導員との結び付きで、他者と関わりをもつ機会を増やすことができた。
○　個に応じた学習支援や活動を行ったことで、通級した児童生徒の進級、進学に対する意欲を高めることができた。
○　学校と連携を図ることで、ICT を活用した学習保障を行うことができ、学びの方法が広がった。

共和町

■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
□　教育支援センターの機能充実に向けた取組

学習意欲と自己肯定感の向上をめざして

《 概 要 》

○　令和５年４月に開設した当教育支援センター（すくーる）は、不登校が長期化しているなどの様々な課題を抱えた複数名の児童生徒が利用している。
○　学ぶ楽しさを実感したり自己肯定感を高めたりする学習活動の実施や、通級、通学を促すための家庭や関係機関との連携を目指して支援を行った。
○　指導員２名を配置し、児童生徒一人一人の理解に努め、児童生徒の興味や関心を重視した学習内容や体験活動を実施するとともに、家庭、関係機関、学校と情報共有や情報交換を行った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　学ぶ楽しさを実感したり自己肯定感を高めたりする学習活動の実践	・児童生徒の理解に努め、個々の特性を見極めながら、興味・関心が高い学習内容を選択し実施した。 ・当機関は町の生涯学習センター内に設置していることから、この施設の機能を活用して、読書活動、調理実習、体力づくりなど児童生徒の興味に合わせて多様な体験活動を行った。 ・一人一人に合わせた活動を行い、やり遂げることで自信をもち、自己肯定感を高めることにつながった。
○　通級、通学を促すための家庭や関係機関との連携	・定期的に保護者との相談機会を設け、児童生徒の実態、今後の学習活動や目標について共通理解を図った。 ・町内の学校に勤務するＡＬＴや地域おこし協力隊との連携を図り、多様な支援を行った。 ・通級状況報告書や個人記録簿、教育相談記録等も活用し、学級担任と情報共有や情報交換を行った。

《 取組の成果 》

○　児童生徒一人一人の実態に応じて学習活動を工夫することで、学習意欲の向上に結び付いた。
○　児童生徒一人一人の意欲やペースを大切にしたことで、主体的に学習に取り組む姿勢が見られるようになり、活動をやり遂げることで自信や自己肯定感の向上につながった。
○　家庭や学校、関係機関と連携することで、児童生徒の学習機会を拡充したり、今後の学校復帰に向けた相談体制を構築したりすることができた。

倶知安町

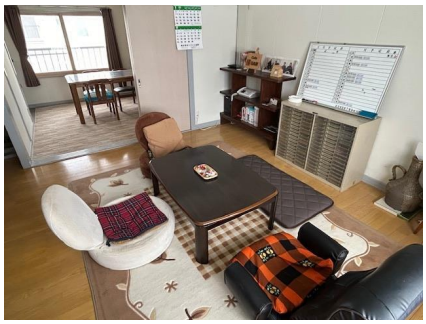
■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
■　教育支援センターの機能充実に向けた取組

『談』～安心できる場・人～

《 概 要 》

○　令和５年に開設した当教育支援センターは、不登校が長期化しているなどの様々な課題を抱えた複数名の児童生徒が利用している。
○　安心できる居場所づくりによる心理面の支援及び学習面・対人面の支援、保護者・学校・関係団体との連携を目指し、社会に復帰できるよう目標をもって支援を行った。
○　指導員１名を配置し、児童生徒の安心できる居場所づくりを行い、個別の学習や小集団での体験活動などの支援、所属する学校や町福祉部局との連携を図った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　安心できる居場所づくりによる心理面の支援	・児童生徒の個々の困り感を理解し、その問題解決及び軽減に向けて児童生徒に寄り添った教育相談を行った。 ・写真のように室内のレイアウトを整え、家のような安心できる居場所づくりを行った。 
○　学習面・対人面への支援	・学習面については、まず「考える力」を身に付けることに重点を置き、次の段階として各教科の理解を深めるための支援を行った。 ・受験生に対しては、学習及び面接練習等を行い、受験に備えた。 ・小グループでのボードゲーム等の活動を通して、他者と関わる楽しさを感じ、積極的に関わろうとする態度を育成した。
○　保護者・学校・関係団体との連携	・保護者との教育相談を行い、共に支援する体制づくりを行った。 ・学校と児童生徒の状況を共有するとともに、活動への参加を促すため、学校へ引率し、別室での活動及び儀式的行事に参加した。 ・各学校や関係団体との会合の場、交流の場を増やすことで、互いの活動への共通理解を深め、連携した指導･対応の充実を図った。

《 取組の成果 》

○　「考える力」を身に付ける支援を行ったことで、児童生徒が課題に対して集中して取り組み、問題を解決することができるようになり、学習に対する自信と意欲が高まった。
○　中学校第３学年の生徒においては、高校受験への関心が高まり、全員が全日制高校に合格することができた。
○　小集団の活動を通して他の児童生徒との交流を楽しみ、第三者に対しても自信をもって行動をすることができるようになった。

真狩村

■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
□　教育支援センターの機能充実に向けた取組

学校生活への復帰を支える個に応じた学習支援

《 概 要 》

○　令和３年に開設した当教育支援センターは、生活習慣の乱れや不登校が長期化しているなどの様々な課題を抱えている複数名の児童生徒が利用している。
○　個々の様々な興味や関心に対応し、学校や関係機関と連携した学習支援をすることを目指して支援を行った。
○　指導員１名を配置して、週２回各２時間程度で開催し、学校の教育課程に合わせた学習支援や個に応じた活動の支援を行った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　個々の様々な興味や関心に対応した支援	・学習支援を中心に取り組みながら、児童生徒の興味や関心に合わせてバドミントンやバレーボールなどの運動を行ったり、美術、技術家庭科などの実習を行ったりした。 ・複数人での取組が苦手な児童生徒には、個に応じて別の時間を設定するなどの対応をした。
○　学校（学級担任・教科担任）と連携した学習支援	・児童生徒が、学校の学習課題や教材、授業プリントや小テストなどに取り組むことで、教育課程に合わせた学習を進めることができるとともに、学校は評価材料として活用することができ、進路指導の相談・支援につなげることができた。 ・学習内容に応じて学級担任や教科担任が来室して指導員と一緒に支援にあたる場面をつくった。また、１人１台端末を活用し、学習支援を行った。

《 取組の成果 》

○　児童生徒が、家庭内に限られていた生活範囲を広げたり、生活習慣の改善につなげたりすることができた。
○　学校にほとんど登校できていなかった生徒が、教育支援センターでの学習支援をきっかけに高校進学をすることができた。
○　来室が少なかった生徒が常に来室できるようになったことで、進路を意識し、学習に対して前向きに取り組むようになり、定期テスト期間に学校へ登校できるようになった。